

第3回彦根市スポーツ推進計画策定委員会 会議録要旨

【日 時】平成29年1月25日(水) 10:00~12:15

【場 所】彦根市民会館 第2会議室

【出席者】別紙名簿のとおり

1. あいさつ

[委員長]

今日は大変な雪になった。子どもの頃、かまくらや滑り台をつくり屋外で遊んでいたのを思い出す。雪かきをするにも汗だくになり、体力が必要だと痛感した。昨日は、車が動かないので家から歩いたが、雪で歩道が埋め尽くされ、歩くのが難しい状況であった。雪道を歩くのは大変な体力が必要である。生活の営みには体力が必要だと、雪の場面で改めて感じた。普段から体力づくりを考えておくことが大切である。

本日は第3回の委員会となるが、課題を明らかにして、スポーツ推進の知恵をいただき、まとめていきたい。

2. 議題

(1) 市民等意識調査の結果について

[委員長]

興味深い結果が出ている。結果を踏まえ、これらを材料に計画案の組み立てにつなげたい。調査結果について、「健康であるか」と問われると、「健康だ」と回答する人は7割を超えているが、体力については自信がない人が多い。健康と体力の関係、さらには運動機会について興味深い結果となっている。仕事で忙しくて運動・スポーツの機会に恵まれない人、健康上できない人、ご高齢の人もあるが、やはり、運動・スポーツの機会が少ない人が多いと思われる。一方で、運動やスポーツをやりたいという思いも強いと感じる。

[委員]

抽出により実施する社会調査の限界はあるが、今回のアンケートは健康やスポーツに関心がある人が回答していると考えられ、実質の値は全体的に低くなるのではないかと感じる。

施設や指導者について、行政では、現状は充足しているという認識を持っている一方、現場では不足を感じているギャップがあるのではないかと感じる。

子どものスポーツについて、活動する子どもの数が減っているようだが、子どもの数自体が減っており、そのギャップについて、感じている点があれば教えてもらいたい。

[事務局]

運動・スポーツに関連する施設については計画的に考えていく必要があると考える。

活動団体等の会議に出席すると、施設について、様々な要望や意見をお聞きする。行政としては予算にも限りがあり、計画的に進めていくべきだと考えている。また、学校施設等をフルに活用する方法、空いている施設を有効に活用する方法について検討している。

指導者の不足について、子どもたちの活動が不足しているのは、そういった面と関連しているかもしれない。

スポーツ少年団等は、競技によって異なる現状があり、競技によって分散する傾向もみられる。加入者が減少している競技、一定数を維持している競技、多くの子どもで運営しているところな

ど様々であるが、それぞれで課題を持っており、行政としても認識している。

[委員]

大人は仕事が忙しいので、「できる時にやる」形になると思われるが、通っている施設に子どもを遊ばせる場所があれば、子どもを預け、本人は運動しているという話を聞くので、大人も子どもも運動できる環境が必要だと感じる。

[委員]

指導者については資格の必要の有無にも関わってくる。資格を持つ人を望むのであれば、講習を受けて資格を取る必要が出てくる。年齢として30から40歳代は働き盛りで子育ても忙しく、資格を取得するのも難しくなってくる。今後は、資格を持った指導者が必要だと感じる。子どもを預かるからには、しっかりした指導者が必要だと感じる。

施設について、彦根市の武道場ができた時は喜んで使っていたが、手狭になってくると、違う武道場を望むなど欲も出てきて、近隣町まで空いている場所を探したりしている。一方で、学校開放で学校を使わせてもらっており、恵まれている面もある。

[委員]

地域には体育振興委員が活動しており、小学校の体育館等を借りて活動をしているが、他の学区ではどのような状況で取り組まれているのかなど、横の連携が不足しているのではないかと感じる。学校開放にも取り組まれているが、市の広報等にも載っていないのではないかと。スポーツを振興していくのであれば、気軽にできる情報があれば、多くの人が「行こう」と思うのではないかと。

民間のスポーツクラブでは、テニスやプールはあるが、バドミントン等はない。そういう人が集まっている場所で一緒にスポーツをしないと広がっていかないのではないかと。また、親子でスポーツをやろうと思っても、民間であれば受け皿となる場所があるが、公共にはそういった施設は少ないのではないかと。

[委員]

学区の体育振興会では年3回ほど、体育館の使用状況や開放の情報を配っているが、それでも認識は不足していると感じる。スポーツの参加率についても、決まった人が来るような状況がある。競技としては、バレーボール、バドミントン、剣道といった競技に取り組んでいる。学区内の取組について、市全体としては共有されていない。学区で取り組んでいることを全市レベルで発信してもよいのではないかと。

学校プールの開放について、例えば、土曜日や日曜日に使うことができれば、稼働率が上がるのではないかと。

[委員長]

先日、中学校の関係者と話をする機会があった。子どもの数は減っているが、スポーツは盛んであり、部活の数や教員数も減少している状況。スポーツの底辺は中学校の部活だと感じる面もあり、懸念している。

今後、競技や運動に親しむ人口の減少、指導者の減少などにつながっていく可能性もある。

一方、テレビ等で様々なスポーツに関して情報が発信されている中、幅広いスポーツ環境や情報の提供も求められている。行政等はこういった状況をどう捉え、計画にどう反映していくのか、様々な人のスポーツの満足度をどのように上げていくのか、難しい問題もある。

アンケート結果等の資料の内容を消化しながら、素案の方へ入れ込み、良い計画にしたい。

(2) 計画素案（案）について

[委員長]

「はじめに」について、策定の背景や方向性、現状課題の整理がある。意見をもらいたい。

[委員]

オリンピック、国体は、ある程度身近に感じているところがあるが、関西ワールドマスタースゲームズは初めて知った。あまり力を入れない取組であれば、計画での扱いを少し小さくして、国体に力を集中していてもよいのでは。

先日の駅伝で、序盤は滋賀県がトップ近くを走っていたが、後半は遅れてがっかりした。今からがんばって取り組めば、成績も上がっていくのではないかな。

[委員長]

焦点を絞るべきとの指摘だが、情報発信の話にもつながってくる。

オリンピックやパラリンピック、国体もあるが、市民レベルのスポーツや健康づくりも大事にしてもらいたい思いがあり、どちらを先に扱っていくのか。

[委員]

小中学校の体力テストについて、全国より劣っている面があるが、全ての面を引き上げていくことが大切なのか。例えば、市民が得意な種目を伸ばすようなことも考えられるのではないかな。指導員もしっかりしている、彦根で伸ばしていける素地のある種目を探してはどうか。総花的になると、いろいろやっても駄目だったということもある。そういった得意な分野が出てくる機運を作っていく必要がある。

[委員長]

「子どもの運動・スポーツの推進」の指標にも関連する。学校体育に関する記述があるが、気づく点はないか。

[委員]

全体的に子どもの体力は低いと感じている。ただ、市の結果と各学校の結果を見比べると、学校毎でも結果が異なっている。体力テストの結果を受けて、独自の取組を行っている学校、例えば投げる力を高める取組をしている学校もある。

[委員長]

各学校で結果が異なり、学校毎に取り組んでいる現状は理解した。全市で取り組む目標のようなものはないか。

[事務局]

小学校の体育は特定の種目でなく、様々な種目を体験してもらうことが重要。バランスよくしていくことが必要だと考えている。

[委員]

小学校ではバランスよく運動すべきとのことは理解できる。いろいろやってみなければわからないということもある。それならば、中学校になれば、引き上げられるものを考えていく必要があるのでは。福井県は雪が多く、屋内スポーツであるバドミントンや卓球等が盛んで強いようだ。彦根にそういった種目があるのかわからないが、探していくことも必要ではないか。

[委員長]

小学生では、バランスを取ることを重点に取り組んでいくのか、あるいは、一定の種目に焦点を当てつつ、全体の体力を上げていくのか、考えていくことが必要。

[委員]

新体力テストの結果に対して、小学校毎での取組があってもよいのではないかと。それを踏まえて、計画の中でバランスよく県や全国平均を目指すのか、あるいは特色をつくり、運動好きを増やしつつ、バランスよく体力をつけられるような形に持っていくのか、新しい検討に入る重要なタイミングではないか。また、客観的な数値を出すだけでなく、取り組んでいる現状も整理すべきだと感じる。

[委員長]

目指す将来像について意見を出してもらいたい。市の方向性や思いが伝わってくるところでもある。

[委員]

感覚的な意見になるが、「スポーツはもっと彦根を元気にする」といった表現にして、スポーツが主語になるようにしてはどうか。

「する、みる、ささえる」に関して、「みる」には「学ぶ」も含まれるのではないかと。例えば、オリンピックを通じて、リオやブラジルの場所等に思いを巡らせることもあったのではないかと。また、スポーツ観戦をすれば、国際交流につながることもある。「みる」を通じて、世界が広がることもあるため、そういった面も計画に加えてもらいたい。

施策に入ってくるかと思うが、長野オリンピックのレガシーとして「一校一国運動」がある。国を学んだりサポートしたりすることもある。彦根市では、国体で応援する県を決めてもよいし、オリンピックでは応援する競技や国を決めてもよいのではないかと。スポーツを動機づけに学びを広げていければよい。「みる」だけでは娯楽になってしまう。そこから深い学びにつなげてスポーツを熱くしてもらいたい。

[委員]

よい意見だと感じる。スポーツだけでは、その枠から広がっていかない。

他の県や国のこと学ぼうとすると、自らのまちについても学ぶことにつながる。子どもは興味を持てば、自ずと勉強していく。我々はその火付け役となることが必要。

[委員長]

学びについて、国際交流等にも言及してもらった。リオで優秀な成績を収めた人がどのような練習しているのか、テレビで紹介されていることも多かった。若者がどのように力を獲得するのか、教材としても生かすことができる。

[委員]

将来像について、「元気」よりも「笑顔」の方がよいのでは。「元気」の単語は、既に彦根市が取り組んでいる施策と絡んでくるのか。

[事務局]

「元気」をキーワードとしているのは、「ひこね元気計画 21」がある。

[委員]

「元気」の言葉が2つ出てくるのはもったいない。

[委員]

サブタイトルの方を「笑顔」にしてもよいのではないかと。

[委員長]

彦根のまちをクローズアップしているが、国体では人づくり等、人にも焦点を当てており、副題の方で個々の人やまちの集合体を表す言葉が入れば広がりも出てくる。「ひとづくり」や「まちづくり」の形容詞的な言葉を入れてもらいたい。

次に、基本方針や施策に関してはどうか。指標についても提案がある。

[委員]

「子どもの運動・スポーツの推進」について、調査ではふれられていないが、スポーツ事故について、現状や対策がどうなっているのか知りたい。スポーツに取り組む中で、公園の安全性やなども気になる。また、そういった環境をどのように整備するのか、スポーツを指導していると、スポーツの事故をなくしたいという思いが出てくる。事故をなくすには、情報を共有して、事故が多い環境を知ることが第一歩。指導者研修等で事故情報を共有できればよい。自治会等で犯罪件数の情報が出たりするが、例えば、公園の防犯カメラ等の情報もあればよいのではないか。

[委員]

計画の「見せ方」も重要。厚い資料は市民に見てもらえない。概要版等もカラフルにして見てもらえるような「見せ方」が必要。どのような形で、地域に情報を発信していくのか等工夫があればよいのでは。

[委員長]

施設整備の問題は避けて通れないが、新たに建物をつくっていくことは、厳しい面がある。少しでも入れ込むことに知恵を出してはどうか。

指導者のリストアップ等については難しい面もあり、できていないのでは。

[事務局]

滋賀県には指導者登録の制度があるが、市では制度化していない。

[寺崎委員]

「スポーツ指導者協議会」が組織されている。

[委員]

計画内に、様々な担当部署の記載があるが、市民はどこに聞けばよいかわからないので、とりまとめてくれる部署はないのか。尋ねる際の窓口等がはっきりしていれば安心感がある。

[事務局]

最初の窓口としては保健体育課になる。

国の組織でも、以前はあった「体育」の言葉が使われなくなってきており、「スポーツ」の言葉が多くなっている。彦根市では、現在「保健体育課」となっている。

保健体育課の取組としては、「する」部分の強化や運動・スポーツを広げていくところが難しくなっていると感じる。特に経済的な面や観光との連携等については、課題があると考えている。国の計画では、国際競技力の向上について触れられているが、一方で国からは中学校の部活動について週2回は休むよう指針が出されている。競技力向上は教育の面や、親の働き方とも関連してくるところでもあり、議論しているところでもある。

[委員]

民間委託等は考えられないのか。

[事務局]

情報を共有する話に関連すると、行政職員が様々な仕事をしながら、ホームページの充実や編集・更新をするのは難しい。例えば、市民がスポーツ情報を発信するようなことも考えられる。スポーツは多面的な取組を含んでおり、一元化するのは難しい。それぞれの特徴や長所を活かし、特化した情報を発信してもらったり、分担してつなぐ仕組みのようなものがあったりすれば、うまくいくのではと考える。

各委員の所属団体にもそのような面があり、今後の取組の中でつながっていけばよいと考えてい

る。

[委員]

学校施設を借りるため、どこに聞くのか等の方法が記されている「指南書」、「ガイドブック」のようなものがあればよいのでは。

他の市町でも似たような話があると思われる。成功事例もあるのでは。国が紹介していたりしないのか。

[事務局]

部分的な紹介はあるが、大きな枠組みでの紹介は少ない。

[委員]

全国には様々な市町があるので、「よいとこどり」をすれば早いのではないかと。一から取り組むのは無駄。企業であれば成功事例集を作成する。

[委員長]

国体準備室で、彦根の情報をクローズアップしていく必要があると思うが、市民の意識高揚等、お願いしておくことはないか。

[事務局]

国体を大きなまちづくりの契機にしなければならぬと感じている。また、ポスト国体の面では、「レガシー」として何を残すのか考えていかねばならない。

市民への啓発に取り組まなければならないが、「陸上競技」のみ決定しており、他種目は決定していないため、決まり次第、市民への競技の紹介など、競技団体と一緒に啓発に取り組みたい。現状は、アンケートで半分程度の市民は国体を知らないという結果が出ており、自治会長会議でのチラシの配布や、夏のパブリックビューイングで国体を啓発したりしたが、大事なイベントなので、このチャンスを生かしていきたい。

[委員長]

国体準備室と連携して、方向性を計画に盛り込んでもらいたい。

彦根の強みは高校や大学が多いことである。その利点を活用できないのか。

滋賀県内では草津市で活動が盛んになっている。彦根市も、もっと学校と連携できないか。

また、商工会議所と連携して、アスリートを彦根に呼ぶようなことも考えられないか。

情報発信については、FMの活用等も考えられないか。また、指導者の情報について、教えてほしい時にはどこに聞けばよいのかといった発信も重要である。

推進体制については、障害者スポーツに関連する団体が入っていないのが気になる。工夫できないか。

[委員]

市民の8割が運動不足と感じており、実際の体力測定等が簡単にできるようなことができないか。今の体力を気軽に知ってもらえるような仕組みが必要。

推進体制について、輪になっているが、横のつながりが見えない。

[委員長]

大学や企業からも矢印が出てよいのでは。

[委員]

資料もたくさん出され、計画もかなりまとまっているが、あとは見せ方や発信の仕方が重要。市民が見やすく、運動やスポーツをやってみたいと思わせるような資料づくりが必要。

[事務局]

今後、概要版を作成する予定。

[委員]

意識調査から、働き盛りの年齢層がもっとスポーツや体力づくりに関わりを持つようなことができればよいのではと感じた。もっと関われるはずだと感じる。

「する・みる・ささえる」について、様々なスポーツといった面ではなく、一つのスポーツでもその中で支え、学び、いろんなところに関わっていくことになり、そのような内容は理解できる。

[委員長]

ボランティアは、マラソンでも協力してもらっている。各団体がしっかりしているため成功につながっているが、国体となれば、一層市民の参画も必要になる。ボランティアの数を増やす施策も大切ではないか。

[村田委員]

子どもの運動スポーツについて、子どもがスポーツしようと思うには大人の影響も大きい。教員の中でも、体育が苦手な先生もいる。家庭によっては、土日は親も子どもと一緒に家でゲームをしているとも聞き、二極化していると感じる。家庭にどのように発信するのか、また、働く時間や運動・スポーツの機会づくり、意識づくりをどのように発信していくのが重要ではないか。

[委員長]

学校が週2日休みとなり、様々な催し等に取り組んできた経験があるが、情報を出しても来てくれない、という現状もある。どう変えていくのが大切。

市民アンケートで、回答者の年齢層を見ると、50歳以上が半分以上となっている。高齢の人は体力のことを考えるのは自然なことだが、子どもを持つ家庭や若者が、スポーツを進めていくエネルギーにならなければならないが、落ち込んでいるのが気になる。

[委員]

彦根の文化とスポーツが合致した将来像や計画であってほしい。

市民が家にいる環境を変えるため、吹田市ではスタジアムの隣にエキスポシティを造り、人を引き寄せるような大きな都市計画をしている。そういった取組も必要ではないか。

スポーツは生活に余裕があり、自分の状況が良好でないと関われない。スポーツ施策は、施設だけでなく、労働環境や最低限の収入等、スポーツから他の分野へ発信するのも重要だと感じる。

[委員長]

「ハザードマップ」という地図があるが、「スポーツマップ」のような地図が考えられないか。「する・みる・ささえる」スポーツが、どこで、どういう場面でできるのかが掲載されているマップが考えられないか。荒神山の遊歩道や鳥居本のサイクリングロード等は、あまり知られていない。スポーツマップ等を作成し、啓発すればよいのではないか。

(3) その他

[事務局]

今後はタイトなスケジュールになるが、本日の意見を踏まえて修正し、第4回を2月15日の10時から開催させていただきたいので、出席をお願いします。